特定外来生物

緊急対策外来種

重点対策外来種

キショウブ

学名　*Iris pseudacorus*

特徴

観賞用として明治期にヨーロッパから持ち込まれました。ショウブなどと同じように、水路や畦の土留めに用いられてきましたが、管理放棄されるとすぐに水路や水田一面を覆ってしまうほどに増殖します。また、多少湿っている土壌であれば水辺から離れていても生育しています。5 月頃、ハナショウブに形が似た黄色い花を咲かせますが、ショウブのような香りはありません。

花が美しいことから、水辺のアクセントとして畦やビオトープに意図的に植えられてきました。地下茎から群落を拡大する能力が強く、一度純群落を形成すると地上部を刈り取っても地下茎からすぐ元と同程度の群落に再生することができます。地下茎は太く丈夫で、よほどの水流か人工的に切断するなどしないと飛び地的に分散することはあまりありません。種子は1㎝程度で、弱い水流や土の運搬で分散する可能性があります。

三浦半島での分布傾向

芦名堰や野比自然池など三浦半島各地の溜池やビオトープ、休耕田等で見られます。現在は人為的に導入した場所と連続した水域に限られています。岸辺の土留めや景観のために意図的に導入した場合と、家庭で育てたものを投棄して定着した場合があります。個人の庭先などでもよく育てられているので、新たな放逐による分布域の拡大に注意が必要です。

影響

ヨシ群落、ガマ群落の中に侵入し、非常に高密度な群落を形成します。ヨシ群落を好んでいるオオヨシキリやクイナなどの鳥類の利用が難しくなったり、低密度なヨシ群落の地際に生えるハンゲショウやシャジクモ等の水生植物の生育場所を奪います。

類似する種

シャガ

在来種

セキショウ

在来種

キショウブの葉に香りが無く、
セキショウの葉には香りがある。

マコモ

在来種

マコモは、キショウブより
背が高く、葉に光沢がない。

キショウブは初夏に黄色い花をつけることから区別できます。また、セキショウやハナショウブと混在して生育しているときは、キショウブの葉に香りが無いことで区別します。マコモはキショウブより背が高く、葉に光沢がありません。

駆除の方法

種子から発芽した個体は簡単に抜けますが、大型個体であっても地下茎から抜き取る必要があります。沼地の中の作業は大変重労働で、重量もあります。市民団体や地域で作業エリアを決めて力を集中するよう優先順位付けをする必要があります。

地上部には再生能力が無いので、種子の無い時期であれば刈り払って野積みにしていて構いません。地上部を刈り続けながら徐々に地下茎を貧弱にし、抜き取る地下茎の量をなるべく少量にすると良いでしょう。秋に地上部を刈り払っておき、3 月下旬～ 4 月上旬頃の若芽が短い頃を見計らって株ごと鍬等で掘り起こすのが効率的です。

抜き取った地下茎は少なければ可燃ゴミ等として搬出するのが望ましいですが、難しければ数ヶ月厚く積み上げて中の部分を腐らせ、生き残った表面の部分を可燃ゴミとするか、天日干しにして枯らすなどの方法があります。

再生可能な最小サイズ

5 ～10 cm

重量のある地下茎

❶ 鍬等で地下茎を掘り起こす

❷ 量が多いときは、範囲を決めて野積みする

❸ 抜き取った区域は根絶でき、野積みした部分は再生するので、数ヶ月後さらに抜き取って野積みする面積を減らしていく